



第 174 回 学長定例記者会見 発表事項 3

令和 6 年 12 月 25 日

第 33 回ペスタロッシー教育賞
表彰式・記念講演を開催します

広島大学教育学部とペスタロッシー教育賞実行委員会は、優れた教育実践を行っている個人・団体を顕彰する第 33 回ペスタロッシー教育賞の表彰式及び記念講演を令和 7 年 1 月 30 日（木）に東広島キャンパスで開催します。

記

受賞者：森下 弘 氏（もりした ひろむ）
（NPO 法人ワールド・フрендシップ・センター 名誉理事長）

表彰式・記念講演

日 時：令和 7 年 1 月 30 日（木）12:50～14:20

表彰式 12:50～、記念講演 13:20～

場 所：広島大学学士会館 レセプションホール
（東広島市鏡山一丁目 1 番 2 号）

主 催：広島大学教育学部、ペスタロッシー教育賞実行委員会

後 援：株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社

プログラム：

- ・主催者挨拶
ペスタロッシー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- ・祝 辞
株式会社もみじ銀行取締役会長 小田宏史氏
- ・表彰状授与及び胸像贈呈
ペスタロッシー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- ・記念品贈呈
株式会社中国新聞社代表取締役社長 岡畠鉄也氏
- ・記念講演
森下 弘 氏（もりした ひろむ）
（NPO 法人ワールド・フрендシップ・センター 名誉理事長）

※記念講演終了後、記者会見を実施いたします。

※これまでの受賞者一覧等は、本学ホームページをご覧ください。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/about/ed_tokusyoku/pestalozzi

【お問い合わせ先】

広島大学教育学部内
ペスタロッシー教育賞実行委員会事務局 西木
Tel：082-424-7190 FAX：082-424-3478
E-mail：ed-ken-zai@hiroshima-u.ac.jp



第33回ペスタロッチー教育賞表彰式及び記念講演

日 時 令和7年1月30日(木) 12:50～14:20
表 彰 式 12:50～
記念講演 13:20～

場 所 広島大学学士会館 レセプションホール
(東広島市鏡山一丁目1番2号)

主 催 広島大学教育学部、ペスタロッチー教育賞実行委員会

後 援 株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社

受 賞 者 森下 弘 氏(もりした ひろむ)
(NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長)

プログラム

- 1 開会の辞
- 2 主催者挨拶
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長(広島大学長) 越 智 光 夫
- 3 祝辞
株式会社もみじ銀行取締役会長 小 田 宏 史
- 4 表彰状授与及び胸像贈呈
ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長(広島大学長) 越 智 光 夫
- 5 記念品贈呈
株式会社中国新聞社代表取締役社長 岡 畠 鉄 也
- 6 記念講演
森下 弘 氏(もりした ひろむ)
(NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長)
- 7 閉会の辞

【お問い合わせ先】

広島大学教育学部内
ペスタロッチー教育賞実行委員会事務局 西木
TEL : (082) 424-7190
E-mail : ed-ken-zai@office.hiroshima-u.ac.jp



広島大学

受賞者

森下 弘 氏（もりした ひろむ）
（NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長）



広島大学



広島大学

第33回 ペスタロッチー教育賞 表彰式・記念講演

日時 令和7年1月30日(木) 12:50~14:20

12:50~ 表彰式 13:20~ 記念講演

会場 広島大学学士会館 レセプションホール

参加の
お申し込み

QRコードまたはURLをご利用ください
申込期限:1月28日(火)
<https://forms.office.com/r/AemVDKDhHG>



もり した ひろむ
森下 弘 氏

NPO法人ワールド・フレンドシップ・センター名誉理事長

略歴

1930年10月生まれ。

14歳の時、爆心から約1.5km地点の学徒動員先で、同級生約70名と被爆。大学卒業後、教師となる。

1964年、バーバラ・レイノルズが提唱した広島・長崎世界平和巡礼に参加し、自らの被爆体験を世界に伝える。

その後も、ワールド・フレンドシップ・センター(WFC)の活動に参画し、

1986年、原田東岷医師の後任としてWFC理事長に就任。

長年、被爆教師として原爆・平和教育に従事。書家でもある。現在は、WFC名誉理事長。



ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチー (1746年~1827年)



Johann Heinrich Pestalozzi

スイスの教育家・教育思想家。
教育の機会を与えられていなかった孤児や貧困家庭の子どもを対象に、「頭と心と手」の全人的教育の重要性を唱え、自ら学校を開いて、その有効性を世に示した。
著書「隠者の夕暮」他

ペスタロッチー教育賞

広島大学教育学部では、株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社の支援を得て、今日、我が国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践を行っている個人あるいは団体を顕彰するため、1992年に「ペスタロッチー教育賞」を創設しました。本賞は、ペスタロッチー精神に通じた教育実践を行っている個人あるいは団体に光を当て、その功績を顕彰することにより、もって現代の教育を見つめ直すきっかけとなることを期するものです。

お問い合わせ先

広島大学教育学部内 ペスタロッチー教育賞実行委員会事務局

✉ ed-ken-zai@office.hiroshima-u.ac.jp

☎082-424-7190

主催 広島大学教育学部 ペスタロッチー教育賞実行委員会
後援 株式会社もみじ銀行 株式会社中国新聞社

【第33回ペスタロッシー教育賞受賞者紹介文】

第33回ペスタロッシー教育賞受賞者に、森下 弘（もりした ひろむ）氏が選ばれましたので発表いたします。

【第33回ペスタロッシー教育賞 受賞者】

森下 弘（もりした ひろむ）

（NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長）

【略歴】

森下氏は1930年10月26日に広島県大崎上島町に生まれた。14歳のとき、建物疎開作業中に鶴見橋付近で被爆し、顔や手足に受けた傷痕に苦しむ。戦後、新制広島大学文学部を卒業後、高校教師として教壇に立つ。60年にわたって証言活動を行うとともに、平和教育の教材・副読本作成や、高校生を対象とした大規模な原水爆意識調査、被爆者のその後の生き方の調査に携わり、核兵器廃絶を目指す市民運動・平和教育に尽力。30年勤めた廿日市高校を退職後は、島根大学、広島文教女子大学（現広島文教大学）で教授として指導を続けた。アメリカ人平和活動家・バーバラ・レイノルズ氏が1965年に創設したワールド・フレンドシップ・センター（2009年NPO法人化）の理事長を2012年まで務め、現在は名誉理事長に就任している。2024年4月には赤十字国際委員会（ICRC）に招かれ、ノルウェー・オスロを訪問。

【授賞理由】

森下氏は、自らの被爆体験を語るとともに、高校生を対象とした大規模な原水爆意識調査や平和教育の教材・副読本作成などを通じて、高校教師として被爆体験を次世代の子どもたちに伝える平和教育に長く携わってきた。今回はこの長年の活動が高く評価されての受賞となった。

被爆体験で負った傷痕を長らく語ることのなかった森下氏の転機となったのは、1963年の長女誕生であった。生まれて間もなくおっぱいにしがみつく生命力に心を打たれるとともに、原爆で真っ黒こげになった幼児が思い起こされ、「もう二度と子どもたちにこんな体験をさせてはならない」という強い思いから証言活動をはじめた。また、バーバラ・レイノルズの企画する広島・長崎世界平和巡礼に参加し、公民権運動に携わるアメリカの教師に、アメリカでは黒人問題について、教科書の記述は少ないが、日本では、原爆や放射能の影響について、十分な記述がされているでしょうねと問われ、そう思うと答えた。しかし気になり、帰国後に確認したところ、記述は少なかった。高校生を対象とした原水爆意識調査も本格的に行い、平和教育の教材や副読本を作成したり、映画「ひろしま」を高校生とともに視聴したりするなど、精力的に子どもたちと対話を重ねてきた。90歳を超え、体力の衰えを感じる現在でも、何万点もの平和活動関連資料をもとに、国内外に情報を発信し続けている。

「広島を考えることは、平和に対して責任を取ることです。」広島平和記念資料館に展示されているローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の碑文は、森下氏の揮毫によるものであり、何度も書き直して丁寧に仕上げられたという。ウクライナや中東での情勢が切迫する中、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協や全国被爆教職員の会と志を同じくしながらも、高校教師として、残酷な光熱により絶命した子どもへの責任を重く受け止め、未来を担う子どもたちにどう生きるのかと問いかけ続けてこられた森下氏の姿は、革命の混乱に巻き込まれた子どもたちに手を差し伸べたペスタロッシーの教育理念に沿うものであり、第33回ペスタロッシー教育賞を贈呈し、その類まれな、優れた功績を顕彰したい。

ペスタロッチー教育賞 歴代受賞者

	表彰式実施年度		個人・団体		備考
	(西暦)	(和暦)	教育賞	特別賞	
第1回	1992	H4	宮城 まり子		
第2回	1993	H5	谷 昌恒		
第3回	1994	H6	児玉 三夫		
第4回	1995	H7	山田 洋次		
第5回	1996	H8	NHK名古屋放送局テレビ番組「中学生日記」制作スタッフ		
第6回	1997	H9	本吉 修二		
第7回	1998	H10	黒柳 徹子		
第8回	1999	H11	社会福祉法人広島新生学園		
第9回	2000	H12	丸木 政臣		
第10回	2001	H13	佐野 浅夫		
第11回	2002	H14	社会福祉法人似島学園		
第12回	2003	H15	九里 茂三		
第13回	2004	H16	中野 光		
第14回	2005	H17	アグネス・チャン		
第15回	2006	H18	津守 眞		
第16回	2007	H19	昇地 三郎		
第17回	2008	H20	松田 実		
第18回	2009	H21	西谷 英雄		
第19回	2010	H22	金森 俊朗		
第20回	2011	H23	高谷 清	あしなが育英会	※1
第21回	2012	H24	一般社団法人「実践人の家」		
第22回	2013	H25	奥地 圭子		
第23回	2014	H26	水谷 修		
第24回	2015	H27	渡辺 和子		
第25回	2016	H28	湊 晶子		
第26回	2017	H29	中本 忠子		
第27回	2018	H30	和田 晋、児童養護施設舞鶴学園		※2
第28回	2019	R1	大石 由紀子		
第29回	2020	R2	村井 実		
第30回	2022	R4	MISIA		※3
第31回	2022	R4	北川 聡子		
第32回	2023	R5	特定非営利活動法人 学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会 見晴台学園		
第33回	2024	R6	森下 弘		

※1 第20回を記念し、「教育賞」に加え「特別賞」も授与。

※2 1個人と1団体に「教育賞」を授与。

※3 コロナ禍のため2021年度ではなく、2022年度に実施。